

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス くれよんハウス		
○保護者評価実施期間	R6年 9月 18日		R6年 10月 12日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	82	(回答者数) 28
○従業者評価実施期間	R6年 10月 1日		R6年 10月 8日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	R6年 11月 25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	それぞれの保護者と話す機会を設けており、日々のちょっとした悩み等に寄り添うことができる。また、必要に応じて個別相談の時間を取り、必要な情報提供や支援を行っている。	その日の活動内容やお子様の様子を保護者にお伝えし、個別にお話する時間を設けている。これにより、保護者が安心して利用できるようにすると同時に、お子様の現状把握をし、ニーズに答えながらよりよい支援へと繋げている。	その日の利用児の様子や保護者とのお話を、翌日のミーティングにて全職員に周知し、より良い支援に繋げている。
2	多職種の職員が連携しながら療育を行うことで、様々な視点を持ちながら、1人1人のニーズに合った、幅広い支援を行うことができる。	日々のミーティングの中で、それぞれが発言、意見しやすいような雰囲気、関係づくりがされている。	研修の実施や、法人内での異動があることから、多職種の職員と接する機会が多く持てるよう配慮されている。
3	1/週～5/週、保護者やお子様のニーズに合わせて通園が可能。制作やクッキング、ルール性のあるゲーム課題等、設定された活動の中で、様々な課題を楽しみながら経験することができる。	友だちと相談する、協力する等の場面を設定することで、コミュニケーションスキルの向上へと繋げている。	小集団での活動の中でも個別的な対応をしており、職員が仲介しながらことばの提案を行う、お互いの状況や思いを伝える等の支援を行っており、相互的な関わりが持てるように配慮している。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	粗大運動を十分に行うためのスペースがないこと。	新たな広い空間を用意することが難しい。	法人内で広いスペースのある部屋を、時間分けして有効に使う機会の増加に向けて、話し合いを行う。
2			
3			